



TITLE:

『ころに一』ノ意義ニ就キテ

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 『ころに一』ノ意義ニ就キテ. 經濟論叢 1916, 3(5): 668-684

ISSUE DATE:

1916-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127114>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷三第

行發日一月一十年五正大

論說

節用論

田島 錦治

最小活資ノ免稅ヲ論ズ(一)

神戸 正雄

でかゝるひゆゑノ經濟學說(六)

福田 德三

『ころに』の意義ニ就キテ

山本美越乃

課稅ト獨占價格(三、完)

高田 保馬

代表紙幣ト獨立紙幣(一)

作田 莊一

戰後ノ人口増加政策(三、完)

米田 庄太郎

米券倉庫ヲ論ス(一)

河田 嗣郎

雜錄

公營建物ニ關スル美濃郡、織田、松本三博士ノ
所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(一)

福田 德三

金紙ノ開キト物價騰貴トノ關係

河上 肇

米國ニ於ケル地方財政審査所ノ發達

神戸 正雄

富山縣ノ翁媼調査

財部 靜治

經濟漫錄(一)

瀧本 誠一

『ころにー』ノ意義ニ就キテ

山 本 美 越 乃

『ころにー』(Colony, Kolonie, Colonie) 卽チ邦譯ノ所謂植民(殖民)又ハ植民地(殖民地)ナル語ハ從來其ノ用例區々ニシテ、或ハ之ヲ以テ植民者(Colonist)ノ一團("A company of people transplanted from their mother country to a remote province or country, and remaining subject to the jurisdiction of the parent state")ヲ指示スルコトアリ、或ハ然ラズシテ彼等ノ定着地("The district or country colonized.")ヲ稱スルコトアリ、又等シク人ノ一團若クバ土地ノ一部ヲ稱スル場合ト雖ドモ、其ノ實質及内容ニ關シテハ諸說紛々トシテ歸一スル所ヲ知ラス。

元來『ころにー』ナル語ハ其ノ源ヲ拉典語ノ *colonia* ニ發シ、*colonia* ハ *colonus* ("Farmer, cultivator, planter or settler in a new country")ノ意ヨリ、又 *colonus* ハ *colo* ("to cultivate the ground or farm")ノ意ヨリ來レルヲ以テ、*colonia* ハ其ノ本來ノ意義ヨリ論ズル時ハ、耕地・地產若クバ定着地("Farm, landed estate or settlement")ヲ稱スルニ他ナラザルモ、修辭學上ノ所謂換喩法(Metonymy)ニ依リ單ニ土地其ノモノヲ指スノミニ止マラズシテ、該土地ノ上ニ居住セル人卽チ耕作者地產者又ハ定着者("Farmer, landholder or settler")ヲモ併セ稱スルニ至レリ、從テ之ヨリ來レル

(1) Webster, New International Dictionary, sub "Colony."

(2) Oxford New English Dictionary, sub "Colony."

『ころにー』ナル語モ亦最初ハ同一若クバ類似ノ意義ヲ表示センガ爲メニ使用セラレタルモノナルコトハ之ヲ推知スルニ難カラズ、蓋シ農業ハ其ノ事業ノ性質上土地ヲ離レテ成立スルヲ得ザルガ故ニ、農業ニ從事セント欲スル者ハ其ノ土地ニ定着スルノ必要アルコトハ多言ヲ須キズ、是レ古代ニ於テ農民 (Farmer) ナル語ト定着者 (settle) ナル語トハ、殆ンド同意義ヲ有スルガ如クニ看做サレタル所以ニシテ、延テ農業ノ目的ヲ以テ他郷ニ移住シ茲ニ定着セル場合ヲモ、之ヲ *colonia* ト稱スルニ至レルモノナリ。

(註) *colonus* 以外ニ古典語ニ於テハ耕作者ナル意ヲ表ハスニ *agricola* (*ager* = land + *colo* = to cultivate ヨリ來ル) ナル語ヲ以テスルコトアルモ、其ノ孰レニ據ルヲ問ハズ『ころにー』ノ語源ヲ成セル *colo* ノ『耕作』ノ意義ヲ有セルコトハ之ヲ疑フ可カラズ。

コハ現今ノ『ころにー』ノ語源ヲ成セル *colonia* ナル語ノ言語學上ヨリ考察セル意義ニ就キテ述ベタルモノナルモ、然ラバ羅馬時代ニ於テハ實際上ハ如何ナル場合ニ此ノ語ヲ使用シタリヤト云フニ、新征服地ニ羅馬市民ヲ移シ土地ヲ與ヘテ農業ニ從事セシムルト共ニ、邊疆守備ノ任ニ當ラシメタル場合ニ、之ヲ稱シテ *colonia* ト謂ヘルモノニシテ、然カモ是等ノ移住者ハ多クハ後備ノ軍人ニシテ、羅馬市民タルノ資格ハ之ヲ保有シツツ屯田のニ各地ニ移住シタルモノナリ。⁽¹⁾

由來羅馬人ハ希臘人又ハふゐにシア人ノ如クニ通商航海のノ人種ニ非ズ、史家ぎつばんノ言ヲ借りテ謂ヘバ、羅馬人ノ大望ハ陸ニ在リテ海ニ存セザリシナリ、⁽²⁾ 彼等ハ寧ロ農業的ノ軍人ニシテ領土ノ擴張ハ武力ニ依リ、擴張セラレタル土地ハ主トシテ農業的ノ植民法ニ依リテ之ヲ經營シタ

- (1) Niebuhr, B. G. Römische Geschichte, S. 376 ff.
Keller, A. G. Colonization, pp. 50-55.
Morris, H. C. The History of colonization, vol. I, Pt. I, chap. V.
Adam Smith, The Wealth of nations, Bk. IV, chap. VII, Pt. I.
Phillipson, C. The International Law and Custom of Ancient Greece and Rome, vol. II, pp. 124-126.
- (2) Gibbon, E. The History of the Decline and Fall of the Roman Empire (Harper's edition), chap. I, p. 20.

ルモノニシテ、羅馬時代ニ於テハ最初ハ土地ヲ與フルニ非ズンバ自ラ進ンデ他郷ニ移住セントスルガ如キ者ナカリシカバ、政府ハ武力ニ依リテ獲タル土地ヲ羅馬市民ニ與ヘテ屯田のニ之ヲ經營セシメシガ、其ノ後 Gracchus ノ時代ニ至リテハ、救貧政策上ノ一方法トシテ過剰ナル羅馬ノ人口ノ一部ヲ他郷ニ移シテ、茲ニ定着セシムルノ方針ヲ採用シタリ、前者即チ初代ノ屯田的ノ植民地ハ其ノ後ニ起レル他ノ植民地ト區別センガ爲メニ、之ヲ *coloniae civium Romanorum* (羅馬市民ノ植民地) トモ稱セシガ羅馬ノ植民ノ特色ハ實ニ之ニ存シ、此ノ方法ハ密ニ羅馬ノ盛時ノミナラズ其ノ晩年ニ至リテモ亦普ネク行ハレタル所ノモノナリトス。

此ノ如ク *colonia* ナル語ハ、最初ハ主トシテ新征服地ニ於ケル羅馬市民ノ屯田地ヲ指シタルモノナルモ、其ノ後次第ニ變遷シテ是等ノ屯田地ト同一ノ待遇若クハ特權ヲ與ヘラレタル地方ヲモ、等シク此ノ名稱ヲ以テ呼ブニ至レリ、例ヘバ英國ニ於ケル London, Colchester, Lincoln, Chester, Gloucester, Bath 等ノ “Roman coloniae” ト稱セラレタルガ如キハ即チ之ニ屬ス。^①

(註) 羅馬ノ植民ハ之ヲ大別スル時ハ凡ソ左ノ四種トナスコトヲ得ベシ。^②

- (一) 初代ノ軍事的又ハ屯田の植民 (*coloniae civium Romanorum*)、羅馬市民タル特權ハ之ヲ保有シツ、新征服地ニ於テ土地ノ分配ヲ受ケ、茲ニ定着シテ所謂屯田の植民ナナルモノナ云フ。
- (二) 拉典植民 (*coloniae Latinae*)、羅馬人ト他ノ拉典又ハ伊太利人トノ雜居ニ依リテ一ノ植民地ヲ形造レルモノナリ、但此ノ場合ニハ植民地ノ住民ハ羅馬市民ト同一ノ特權ヲ與ヘラル、コトナシ。
- (三) Gracchus 時代ノ植民、コハ嚴密ナル意義ニ於ケル羅馬ノ最初ノ植民ト稱スルモ不可ナク、全ク軍事上ノ目的ヲ有セズシテ單ニ過剰ナル人口ヲ國外ニ移シテ窮民ノ苦痛ヲ輕減セシメントスル主旨ニ出デタルモノナリ。
- (四) 晩年ノ軍事的植民、Marinus, Sulla, Pompey, Caesar 等ノ諸將ニ依リテ計畫セラレ、初代ノ植民ト同シク軍人ニ土地ヲ與

(1) Oxford New English Dictionary, sub “Colony.”
Gibbon, chap. II, note 32.

(2) Lewis, G. C. An Essay on the Government of Dependencies, pp. 113-114.
Lucas, C. P. Introduction to a Historical Geography of the British Colonies, p. 58.

ヘテ屯田的ニ植民ヲナサシメタルモノナリ。

由是觀之、現ニ各國ニ於テ汎ク使用セラレツ、アル『ころに』ナル語ハ、其ノ語源ニ溯リテ之ヲ考察スルモ或又初メテ此ノ語ヲ使用シタル羅馬時代ノ實際上ノ用例ニ就キテ之ヲ檢スルモ、其ノ中ニハ少クトモ『土地ノ耕作』及『住所ノ設定』ノ二意義ヲ包含シタルコトヲ知ルヲ得ベシ、唯語源上ニ於テハ其ノ意義ヲ有セザルモ實際上ノ用例トシテハ、羅馬ノ *colonia* ハ主トシテ征服地即チ武力ニ依リテ獲得シタル地方ニ對スル屯田的ノ移住ヲ稱セル點ニ於テ一特質ヲ有シタルニ過ギズ。

此ノ如クニ觀察シ來ル時ハ、近世ノ植民地中前述ノ『ころに』ナル語ノ語源及沿革ニ照シテ比較的其ノ眞意ヲ傳フルニ近キモノヲ求メバ、唯移住植民地（又ハ農業植民地）アルノミニシテ、爾餘ノ植民地例ヘバ放資植民地（又ハ探收植民地）及根據的植民地等ノ如キハ、之ニ『ころに』ナル名稱ヲ冠スルハ當ラザルガ如キ感アリ。

二

以上ハ『ころに』ナル語ノ語源及其ノ當初ノ實際上ノ用例ニ就キテ攻究シタルモノナルモ、羅馬人ハ又最初ハ希臘人ノ國外移住即チ *strokia* ^{アホイキヤ}ヲ譯スルニモ等シク *colonia* ナル語ヲ以テシ、⁽¹⁾反對ニ希臘人ハ羅馬ノ *colonia* ヲ以テ希臘本國民ノ移住ヨリハ寧ロ雅典市民ノ移住ニ類セルモノトシテ、之ヲ譯スルニ *Kalyponia* ^{クラヤポニア}ナル語ヲ以テシタルガ故ニ、⁽²⁾ *colonia* ノ觀念ヲ一層明確ナラシメンガ爲メニハ、更ニ希臘時代ニ溯リテ是等ノ類語ノ意義及其ノ實際上ノ用例ヲ比較研究シ、以テ其

(1) Oxford New English Dictionary, sub "Colony."

(2) Egerton, H. C. The Origin and Growth of the English Colonies &c., p. 18

ノ異同ヲ明カニスルノ必要アリ。

(註) 尤モ後ニ至リテハ希臘ノ *strosia* ハ羅馬ノ *colonia* トハ全ク相同ジカラザルコト明カトナルニ及ビ、之ヲ譯スルコト

ナクシテ希臘語ニ於テモ亦 ^{ローマ} *colonia* ト書スルニ至レリ。

抑モ希臘時代ニ於ケル植民の活動ハ之ヲ大別シテ、希臘本國民ノ移住及雅典市民ノ移住ノ二種トナスコトヲ得ベク、前者ハ之ヲ *strosia* ト稱シ後者ハ之ヲ *kyponia* ト呼ベリ。然ルニ *strosia* ナル語ハ本來 *stros* (away from) + *strosia* (home) ノ意義ヲ有シ、即チ家郷ヲ去ルノ意ヲ表ハスニ他ナラズト雖ドモ、單ニ一時郷土ヲ離ルルモノニ非ズシテ故國ヲ去リテ遠ク他郷ニ永住スルコト ("A settlement far from home") ヲ稱ス、故ニ若シ *colonia* ナル語ト共通の點アリトセバ、ソハ單ニ故國ヲ去リテ他郷ニ住所ヲ設定スルノ意義ヲ有セル一事ニ於テ然リト言ヒ得ベキノミ、然カモ這ハ *colonia* ナル語ノ有セル意義ノ一半ニ過ギズシテ、最モ重要ナル觀念ノ一タル *colo* 即チ耕作ノ意義ニ關シテハ *strosia* ハ何等ノ暗示ヲ與フルコトナシ、加之、之ヲ當時ノ實際上ノ用例ニ徴スルモ、*strosia* ハ *colonia* トハ全ク異ナレル本質ヲ有シタルコトハ之ヲ疑フ可カラズ。

蓋シ古代希臘ニ於テハ多クノ奴隸ヲ使役シタルヲ以テ、市民自ラ勞役ニ服スルノ要ナク、從テ有爲ノ材ヲ抱キテ空シク無事ニ苦メル者モ尠ナカラザリシト、彼等ノ中ニハ又自國ノ政治及社會狀態ニ對シテ不滿ノ念ヲ有セル者モ甚ダ多ク、是等ノ徒ハ自國ヲ脱シテ自由ニ驢足ヲ伸ブルコトヲ得ベキ新天地ヲ發見セント欲シ、爲政者モ亦之ヲ以テ内亂ヲ避クル最良ノ方法ト看做シテ彼等ノ自由ニ委子シカバ、茲ニ初メテ植民の活動ノ端緒ヲ開クニ至レリ、故ニ希臘ノ植民の活動ハ

(1) Liddell and Scott. Greek-English Lexicon, sub *strosia*.

じヤーさん氏ノ言ヘルガ如ク、物質的ノ缺乏ヲ充タサンガ爲メヨリハ、寧ロ精神的ノ不滿ヲ醫セ
ンガ爲メニ起レルモノト謂フモ不可ナシ。

(註) 當時希臘ニ於テ市民ノ軋轢ヲ防止シタル方法ハ、一ハ國外移住ノ獎勵ニシテ他ハ *ostracism* ナリキ、『おすこらしずむ』
トハ紀元前六世紀頃雅典ニ於テ *Cleisthenes* ニ依リテ創定セラレタル方法ニシテ、多數人民ノ快シトセザル者若クハ危險視
セラルベキ者ハ、其ノ罪過ノ有無ヲ問ハズシテ一般公衆ノ投票ニ依リ、五箇年乃至十箇年間國外ニ追放シタルヲ謂フ、其ノ
投票ハ之ヲ蠲設ニ記シタルヨリ此ノ稱アリ。

其ノ殖民的活動ノ原因既ニ此ノ如クナルヲ以テ、移住地對本國間ニハ殆ンド政治的ノ連鎖ナ
ク、移住地ハ恰モ本國ヨリ分立セル一獨立國タルガ如キ觀アリキ、斯カル狀態ノ下ニ存セル移住
ヲ稱シテ希臘時代ニハ之ヲ *apoikia* ト呼ベリ。

(註) *apoikia* ハ此ノ如ク政治上ニ於テハ獨立分離セルモ、社會上ニ於テハ尙ホ本國トノ關係ヲ持續シタリ、例ヘバ移住者ノ本
國ヲ去ルニ臨ミテハ鄉人等ハ宗教的ノ儀式ヲ以テ之ヲ送り、又移住者ハ神祇ヲ祀レル靈廟内ノ火ヲ携ヘテ出發セルヲ常トシ、
其ノ他移住地ヨリハ毎年使者ヲ本國ニ送りテ神靈ヲ祭り、又宗教上ノ一切ノ事項ハ本國ヨリ僧侶ヲ招キテ之ニ任シタリ。
此ノ如ク希臘ノ *apoikia* ハ當初ヨリ政治上ニ於テハ本國ト分離セル獨立の團體トシテ他鄉ニ
移住シ、從テ彼等ノ對外的發展ハ毫モ本國ノ政治的勢力ヲ増加セシムルモノニ非ズ、又多クハ未
ダ本國ノ領有ニ屬セザルカ、若クハ其ノ領有ノ不確實ナル地方ニ發展シタルニ反シ、羅馬ノ *colonia*
ハ既ニ述ベタルガ如ク一般ニ國家ノ力ヲ以テ某地方ノ住民ヲ征服シ、茲ニ新タニ羅馬ノ勢力
ヲ扶植セントスル目的ヲ以テ土地ヲ與ヘテ羅馬市民ヲ移住セシメタルモノナルガ故ニ、母國ニ對
シテハ常ニ從屬的ノ關係ニ立チ *apoikia* ノ如クニ獨立の地位ヲ有セルモノニ非ズ、るゝいすハ

(1) Keller, pp. 39 ff.
Lucas, pp. 52-54.
Egeron, pp. 16-17.

Adam Smith, Bk. IV, chap. VII, Pt. I.
Speck, E. Handelsgeschichte des Altertums, Bd. II, S. 166 ff.
Curtius, E. The History of Greece, Bk. II, chap. III.

Morris, vol. I, Pt. I, chap. IV.
Lewis, pp. 106-107.
Phillipson, pp. 117 ff.

其ノ著『屬領統治論』中ニ、希臘ノ植民ハ亞米利加ニ於ケル英國ノ植民ニ類シ羅馬ノ植民ハある也
リトニ於ケル佛國ノ植民ニ似タリト言ヘルモ、吾人ハ更ニ廣ク希臘ノ *braccia* ハ本國ノ統治權ノ
行ハレザル地方ニ移住シタル點ニ於テ現今ノ所謂移民ニ近ク、羅馬ノ *colonia* ハ反之母國ノ統治
權ノ行ハルル地方ニ移住シテ農業ニ從事シタル點ニ於テ、現今ノ所謂農業植民ニ似タリト謂フノ
寧ろ適切ナルベキヲ信ス。

三

次ニ *kygouria* ナル語ニ *kygos* (lot) + *exō* (to have) ヨリ來リ、其ノ本來ノ意義ハ抽籤ニ依リ
テ一定ノ分配ニ與カルコトヲ示スニ他ナラズ、而シテ雅典市民ノ移住ヲ呼ブニ此ノ名稱ヲ以テシ
タル所以ハ、雅典政府ノ占領シタル地方ヲ市民ニ分配シテ農業的ノ經營ヲ爲サシメタルニ由ル、
故ニ此ノ點ニ於テハ *kygouria* ハ寧ろ羅馬ノ *colonia* ニ酷似シ、希臘本國ノ *braccia* トハ全ク其
ノ性質ヲ異ニセルモノト言ハザル可カラズ。

然レドモ亦他方ヨリ考察スル時ハ、*kygouria* ト *colonia* トハ之ヲ同視ス可カラザルモノアリ、
今其ノ異點ヲ述ブルニ先ダテ雅典ノ植民の活動ニ付キテ一言センニ、波斯人ノ希臘遠征後希臘ノ
主權ハ漸次雅典ニ移リ、雅典ハ遂ニ多瑙海及其ノ附近ニ幾多ノ屬領ヲ獲シガ、是等ノ地方ハ各
自共和主義ヲ基礎トセル政府ヲ有シ、内政ハ自ラ之ヲ處理シタリト雖ドモ一般ニ雅典ノ監督ヲ受
ケタリ、然ルニ雅典政府ハ是等ノ屬領中或地方ニ於テハ土地ノ一部ヲ收メテ之ヲ雅典市民ニ分配

(1) Lewis, p. 117.

シ、以テ農業的ノ經營ヲ爲サシメタルヨリ茲ニ所謂 *kypovxia* ナルモノヲ生ズルニ至レリ、故ニ *kypovxia* ハ其ノ外觀ニ於テハ羅馬ノ *colonia* ニ似タリト雖ドモ、後者ハ半バ邊疆守備ノ目的ヲ有シタル屯田的ノ植民ナルニ反シ、前者ハ毫モ斯カル目的ヲ有セズシテ唯單ニ雅典市民ニ土地ヲ分配シテ農業的ノ經營ヲ爲サシメタルニ過ギザル點ニ於テ差異アリ、加之 *kypovxia* ノ *colonia* 及 *choria* ト全ク異ナレル他ノ點ハ、土地ノ分配ヲ受ケタル者必ラズシモ其ノ地方ニ移住セズ、又假令一時移住スルコトアルモ久シカラズシテ故國ニ歸リ、自己ハ唯地主トシテ一定ノ地代ヲ徵收スルニ過ギザルガ如キ方法サヘモ行ハレタルコト是レナリ。⁽¹⁾

由是觀之、雅典ノ *kypovxia* ハ一方ニ於テハ近世ノ所謂移住植民地(又ハ農業植民地)ノ性質ヲ有スルト共ニ、他方ニ於テハ放資植民地(又ハ採取植民地)ノ性質ノ一部ヲモ具有シ、*colonia* ヨリモ更ニ廣ク近世ノ植民地ノ意義ヲ包容セルモノト言フヲ得ベシ。

以上吾人ハ『ころにー』ナル語ノ意義ヲ明カニセンガ爲メニ其ノ語源ニ溯リテ之ヲ研究シ、且其ノ原語ノ當初ニ於ケル實際上ノ用例及之ガ類語トシテ從來學者ニ依リテ屢々引用セラレタル、*choria* 及 *kypovxia* 等ノ意義ニ關シテモ亦其ノ異同ヲ辯ジタリ。而シテ斯カル沿革ヲ有セル『ころにー』ナル語モ、時世ノ變遷ト共ニ漸次其ノ意義ヲ擴張シ、近世ノ用例ニ從ヘバ此ノ語ノ由テ來レル *colonia* 即チ耕作ナル原意ハ殆ンド閑却セラレ、唯新タニ獲得シタル地方ニ國民ノ移住的・放資的若クハ根據的ニ發展スルコト及其ノ地方ニハ母國ノ主權ノ行ハルルコトヲ必要條件トナス以外ニハ、各人ノ經營スベキ事業ノ種類等ハ敢テ之ヲ問ハザルニ至レリ。⁽²⁾

- (1) Lewis, pp. 102-103. Keller, pp. 49-50, note 2. Curtius, Bk. III, chap. III. "Colonial Policy of Athens" and "The Cleruchies". Lucas, pp. 54-55. Böckh, A. Die Staatshaushaltung der Athener, Bd. I, S. 499 ff. Grote, G. A History of Greece, vol. II, Pt. II, chap. XLVII.
- (2) Oxford New English Dictionary, sub "Colony." Larousse, Grand Dictionnaire Universel, "Colonie." Meyer, Grosses Konversations-Lexikon, "Kolonien."

四

希臘時代ニ於テハ雅典ノ特例ヲ除キテハ前述ノ如ク本國對移住地間ニハ殆ンド政治的ノ連鎖ナク、(ふぬにしあ時代ニ於テモカーセービノ植民地ハ雅典及羅馬ノ植民地ニ似タル組織ヲ有セシモ、他ハ希臘本部ノ移住地ニ類シ、當初ノ關係ノ如何ニ拘ハラズ漸次獨立ノ地位ヲ有スルニ至レリ、其ノ原因ハ蓋シ商業國民ノ特質トシテ廣ク各地ニ散在セル住民ヲ糾合シテ一大植民國ヲ建設スルコトハ、交通機關ノ未ダ發達セザル當時ニ在リテハ頗ル困難ナル事情アリシニ因ル⁽¹⁾、移住地ハ恰モ一獨立國タルガ如キ地位ヲ有セシガ、羅馬時代以後其ノ目的及實質ハ時ト處トニ應ジテ差異アリト雖ドモ、苟クモ植民地ナル觀念ニハ少クトモ母國ト政治的ノ從屬關係ヲ有スルコトヲ必要條件トナセリ、殊ニ近世ノ如ク交通機關ノ發達ニ伴ヒ海外發展ノ範圍ハ次第ニ擴張セラレ、個人ノ自由ニ世界ノ各地ニ移住シ得ベキ時代ニ在リテハ、其ノ植民地タルヤ否ヤヲ決定スルニハ、政治的從屬關係ノ有無ハ極メテ重要ナル問題トナレリ、例ヘバ現今北米合衆國ニハ多數ノ外人居住スルモ、之ヲ以テ直チニ合衆國內ニ是等各國ノ植民地ヲ建設シ得タリト稱スルヲ得ズ、是レ蓋シ斯カル移住地ト本國トノ間ニハ毫モ政治的ノ從屬關係存セザルヲ以テナリ、然カモ尙ホ時トシテハ一樣ニ之ヲ海外植民ト呼ブコトアルモ、此ノ如キハ植民ナル語ノ正當ナル用例ト稱スルヲ得ズ。

凡ソ國民ノ海外移住ニ關シテハ、單ニ故國ト社會的又ハ經濟的ノ關係ヲ有スルニ過ギザル地方ニ移住スル場合即チ所謂移民ト、更ニ政治的ニ從屬關係ヲ有セル地方ニ移住スル場合即チ所謂植

(1) Lucas, pp. 48-51.
Lewis, pp. 107-110.

民トヲ明カニ區別スルノ必要アリ、尤モ社會的又ハ經濟的ノ關係ハ終ニ政治的ノ關係ヲ生ゼシメ、移民變ジテ植民トナルコトナキニ非ズト雖ドモ、其ノ本來ノ意義ニ於テハ是等ノ兩者ハ明カニ區別セラルベキモノナリ。

然ルニ學者中ニハ此ノ最モ重要ナル區別ヲ無視シテ尙ホ植民ノ意義ヲ定メントスル者アリ、例ヘバ植民地統治策ニ關シテ有益ナル參考ノ資料ヲ吾人ニ遺セルる一ツす (Sir George Cornwall Lewis) ノ如キハ、植民トハ一國ニ屬セル人民ノ一團ガ其ノ國ヲ棄テテ、全ク無人ナルカ或ハ殆ンド住民ナキカ若クハ先住者ヲ驅逐シタル或地方ニ、獨立的又ハ從屬的ニ新タニ分立セル一社會ヲ形造ルヲ云フト言ヘルモ、斯カル說ハ近世ノ植民ノ觀念トハ相容レズ、何トナレバ近世ノ『ころにー』ハ古代ノ *Aboriginal* ノ如ク、母國ヲ棄テテ他郷ニ獨立的ノ一社會ヲ形造ルモノニ非ズシテ、母國對移住地間ニハ常ニ政治的ノ從屬關係ノ存スルコトヲ根本要件トナスヲ以テナリ、加之若シる一いすノ說ニシテ眞ナリトセバ、當初英國ヨリ分離シテ獨立的ノ一社會ヲ形造レル現今ノ北米合衆國ノ如キモ、尙ホ之ヲ英國ノ植民地ト稱セザルヲ得ザルガ如キ不都合ヲ生ズベシ、現ニる一いすハ自說ヲ貫徹センガ爲メニ、北米合衆國ヲ以テ英國ノ植民地ト看做シツ、アルモ、此ノ如キハ徒ラニ形式ニ拘泥シテ事實ヲ無視セル謬見ト言ハザルヲ得ズ、要スルニる一いすハ近世ノ『ころにー』ト全ク其ノ性質ヲ異ニセル前掲希臘ノ *Aboriginal* ノ如キモノヲモ、其ノ源ヲ羅馬ノ *colonia* ニ發セル現今ノ所謂『ころにー』ナル觀念中ニ包括セシメ、異ナレル二種ノ現象ヲ強テ同一定義ノ下ニ置カントシタルヨリ、斯カル不合理ニ陷ルニ至レルモノナリ。

(1) Lewis, p. 168.

(2) Ibid, note 3.

五

其ノ他從來ノ學者ニシテ近世ノ植民地ノ基礎的要件ヲ成セル、母國ニ對スル政治的ノ從屬關係ナル事實ヲ輕視シテ、却テ比較的重要ナラザル他ノ見地ヨリ之ガ定義ヲ下サント試ミタル者モ少ナカラズ。

例ヘバ近世ノ植民事業ニ關シテ極メテ簡單ナリトハ云ヘ初メテ組織的ノ意見ヲ發表シタル、
ベーコンハ新拓殖地(New plantations)(即チ現今ノ所謂植民地)ヲ以テ單ニ母國ヨリ派生セル子國ヲ稱スルニ過ギズト云フガ如キ、頗ル漠然タル見解ヲ下シ、

せーむす、みるハ植民トハ遠隔ノ地ニ居住センガ爲メニ母國ヲ去ル人民ノ一團ヲ云フト解スルガ故ニ(ちんまーまん氏ノ引照ニ據ル)(註)、みるノ說ニ從ヘバ斯カル移住者ノ定着地ハ其ノ本國ニ對スル關係ノ如何ヲ問ハズシテ、凡テ之ヲ植民地ト看做サザルヲ得ザルガ如シト雖ドモ、此ノ如クンバ植民地ト移民地トノ區別ヲ立ツルコト難ク、

(註) Zimmermann 氏ノ引用セル James Mill ノ Essays ナルモノハ當大學ニ之ヲ藏セザルヲ以テ、姑ク引用者ノ Kolonialpolitik, S. 1. ニ據ル(但シちんまーまん氏ハ之ヲ以テみるノ見解ナルガ如クニ思考シツ、アルモノ、如シト雖ドモ、實ハみる以前ニ既に Dr. Johnson ノ英辭典中ニ植民ニ關シテ下セル定義ヲみるハ其儘襲用シタルニ過ギズ。

せーモ亦之ト殆ンド同一ノ見解ヲ有シ、即チ植民地トハ母國ト稱スル舊國ノ國民ガ遠隔ノ地方ニ形造レル定着地ヲ云フトナシ(註)、

(註) J. B. Say ノ佛原文モ亦當大學ニハ之ヲ藏セザルヲ以テ、一八二二年出版英譯 Treatise on Political Economy, Bk. I, chap. XIX ニ據ル。

すのーハ植民地ヲ以テ社會上及經濟上有力ナル國家ト關係ヲ有スルモ文化ノ程度ニ於テハ劣リ、

(1) Bacon, Francis. The Essays or Counsels Civil and Moral (in Everyman's Library), p. 104, "Of Plantations."

從テ移住者ヲ通ジテ有力ナル國ノ勢力行ハレ、漸次土民ノ教化及自然的富源ノ開發ノ目的ヲ達シ得ベキ地方ヲ云フトナスモ、政治的ノ從屬關係ヲ以テ之ヨリモ更ニ重大ナル根本要件ト認メズ、⁽¹⁾ ぢろーるモ亦略ボ同様ノ意見ヲ有シ、一國ノ人民ガ土民ノ完全ニ利用スルコト能ハザル富源ヲ利用スルト共ニ、彼等ヲ指導シテ文化ノ恩惠ニ浴セシムル目的ヲ以テ移住スル地方ヲ指シテ植民地トナシ、⁽²⁾

かるでこつとハ植民トハ人民ノ一團ガ本國ヲ去リテ他ノ地方（本國ト政治的關係ヲ有シ若クハ政治的ニ獨立セル）ニ移住スルヲ云フトナスガ故ニ、⁽³⁾ 氏ノ見解モ亦前掲るーいす及せーむす、みる等ノ意見ニ對スルト同一ノ非難ヲ免ル能ハザルモノト言フヲ得ベク、

ろつしゐるハ植民ノ特質ハ比較的古キ國民ガ比較の幼稚ナル土地ヲ占領スルコト及國民ノ一部ガ全部ヨリ分離スルコトニアリトナスヲ以テ、⁽⁴⁾ 斯カル特質ノ實現セラルル所是レ即チ植民地ト稱シ得ベケンモ、是等ノ特質ハ何レモ幾多ノ疑問ヲ生ジ得ベキモノニシテ、例ヘバ國土及國民ノ新舊老幼等ハ何ヲ標準トシテ之ヲ決定スベキヤ、又國民ノ一部ガ全部ヨリ分離スト云フモ、放資植民地ノ如キニ在リテハ必ラズシモ國民ノ分離ヲ必要條件トナサザル等、其ノ間ニ疑義ヲ挾ムベキ餘地頗ル多ク、

しゐふれーハ植民トハ人ノ移住ニ依リテ高等ナル他國ノ文明（政治的・社會的及文化的ノ）ヲ輸入シ、以テ土民ヲ啓發スルヲ云フトナスモ、⁽⁵⁾ 母國對植民地間ノ政治的連鎖ニ關シテハ定義中ニ明言スル所ナク、

- (1) Snow, A. H. The Administration of Dependencies, p. 94.
- (2) Girault, A. Principes de Colonisation et de Législation coloniale, t. I, p. 3.
- (3) Caldecott, A. English Colonization and Empire, p. 8.
- (4) Roscher u. Jannasch. Kolonien, Kolonialpolitik und Auswanderung, S. 1.
- (5) Schäffle, A. E. F. Kolonialpolitische Studien in der Tübinger Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft, Bd. 43, S. 126.

ちんまーまんハ植民トハ畜ニ人ノ移住ヲ稱スルノミナラズ、新タニ獲タル地方ヲ文化的ニ開發處理スルヲ云フトナシ、⁽¹⁾是亦甚ダ茫漠タル定義ヲ與ヘ、

ひゆつべしゆらいでんハ植民ヲ狹義ノ植民及開拓ニ分チ、前者ハ新タニ領有セル地方ニ本國ノ努力ヲ移入スルコトニ依リテ、其ノ社會的發達ヲ遂ゲシムル開發事業ヲ云ヒ、後者ハ主トシテ本國人以外ノ努力ヲ使用シテ新タニ領有セル地方ヲ開發スルヲ云フトナシ、廣義ノ『ころにー』中ニ植民地及開拓地ノ二者ヲ包含セシメタルハ、近世ノ『ころにー』ノ觀念ニ合致セルモノナリト雖ドモ、單ニ之ノミニテハ未ダ以テ母國對植民地間ノ政治的關係ヲ明カナラシムルニ足ラズ、

又假令母國對植民地間ニ政治的從屬關係ノ存スルコトヲ認ムル學者ノ間ニ在リテモ、其ノ見解ハ頗ル區々ニ分ル、例ヘバ、

あいるらんどハ植民地トハ本來ノ國土以外ノ土地ニシテ、多少本國ノ主權ノ行ハルル地方ヲ云フト解シツ、⁽²⁾尙ホ印度ヲ以テ植民地ト看做サザルガ如キ矛盾ニ陥リ、

すてんげるハ植民ナル語ハ人類學的及法理的ノ二様ノ意義ニ使用セラルルモ、法理上ヨリ所謂植民トハ母國對移住地間ニ國法上又ハ國際法上ノ從屬關係ノ存スル場合ニ於ケル國民ノ移住ヲ指ストナスガ故ニ、⁽³⁾氏ノ説ニ依レバ比較的明瞭ニ移民ト植民トノ區別ヲ立ツルコトヲ得ベシト雖ドモ、吾人ハ國際法上ニ於テ從屬關係ヲ有セル地方ハ、之ヲ準植民地トシテ普通ノ植民地ト區別スルノ寧ロ正當ナルベキヲ信ズル者ナルガ故ニ、未ダ悉ク氏ノ説ニ贊スルコト能ハザルモノアリ、
ゑじやーとんハ植民トハ或形式ニ於テ母國ニ政治的ニ從屬スル一社會ヲ稱シ、其ノ多數ハ出生

(1) Zimmermann, A. Kolonialpolitik, S. 1.
(2) Hübbe-Schleiden. Colonisations-Politik und Colonisations-Technik, S. 1.
(3) Ireland, A. Tropical Colonization, p. 5.
(4) Stengel. C. F. Deutschen Schutzgebiete, S. 10.

又ハ起源ニ於テハ母國人ナリト雖ドモ、再ビ母國ニ歸リテ永住スルノ意志ナキモノヲ云フト解スルモ、⁽¹⁾移住者ノ多數ガ母國人ナリヤ否ヤ及再ビ母國ニ歸リテ永住スルノ意志ナキヤ否ヤハ、『ここに』ノ意義ヲ決スルニ重要ナル問題ニ非ズ、要ハ唯母國對移住地間ニ政治的ノ連鎖ヲ有セルヤ否ヤニ在リト言フヲ得ベク、

けらハ植民地トハ母國民ガ現ニ定住シ若クハ將來定住シ得ベキ政治的ノ從屬地ヲ稱ストナスモ、母國民ノ定住ノ有無若クハ其ノ能否ハ必ズシモ植民地タルヤ否ヤヲ決定スベキ重大ナル要件ニ非ザルガ故ニ此ノ說モ未ダ完全ナリト稱スルヲ得ザルベク、

きよぶな⁽²⁾モ亦一國民若クハ其ノ一部分ガ本來ノ國土以外ニ移住シ、然カモ其ノ移住地ト母國トノ間ニハ政治的及法律の連鎖ノ存スル場合ニノミ之ヲ『ここに』ト稱ストナスモ、近世ノ『ここに』ハ一國民又ハ其ノ一部分ガ本來ノ國土以外ニ移住スルコトヲ以テ、必要缺ク可カラザル條件トナサザルコトハ既ニ述ベタル所ノ如ク、唯其ノ地方ニ移住セント欲セバ毫モ他國ノ制肘ヲ受クルコトナクシテ、何時ニテモ自由ニ移住シ得ベキ狀態ニ在レバ足ルノミナルヲ以テ、吾人ハ此ノ說ニモ全ク同意ヲ表スルコト能ハズ、

唯比較的完全ニ近キハらんちノ說ニシテ、氏ハ植民地トハ本來ノ國土以外ノ領土ニシテ之ガ統治ハ本國ニ於ケルトハ異ナレルモ、然カモ尙ホ本國政府ニ從屬スベキモノタリ、母國民又ハ其ノ子孫ノ移住スルト或ハ他ノ人種ノ定住スルトヲ問ハズ、植民地ノ統治ハ常ニ母國ニ從屬セザル可カラズト云ヘリ、⁽⁴⁾此ノ見解ハ近世ノ『ここに』ノ觀念ニ照ラシテ大體ニ於テ正鵠ヲ得タルモノト

(1) Egerton, H. E. A Short History of British Colonial Policy, p. 8.
(2) Keller, A. G. Colonization, p. 2.
(3) Köbner, Otto. Einführung in die Kolonialpolitik, S. 6.
(4) Reinsch, P. S. Colonial Government, p. 16.

言フモ不可ナシ。

六

此ノ如ク從來ノ學者ノ『ころに』ニ關スル定義ハ『人』又ハ『土地』ノ何レヲ指示スル場合ニ於テモ一極メテ區々タリト雖ドモ、其ノ多クハ過去ニ於ケル植民ノ事實ニノミ重キヲ置キ、是等ノ事實ヲ基礎トシテ定義ヲ下サント試ムルガ故ニ、現今ノ實情ニ適合セザルノ嫌ヒナキ能ハズ。

既ニ述ベタルガ如ク移民ト植民トハ其ノ間ニ明白ナル區別存シ、移民ハ單ニ某國民ガ其ノ郷土ヲ去リテ永久又ハ長期間他國ノ領土内ニ移住スルヲ稱スルモ、『人』ニ對シテ『ころに』ナル語ヲ使用スル時ハ、之ニ反シテ某國民ガ其ノ本來ノ國土以外ノ領土換言セバ新タニ本國ト政治的ノ從屬關係ヲ生スルニ至レル土地ニ、移住的・放資的若クハ根據的ノ發展ヲ爲スヲ稱ス、更ニ之ヲ約言セバ移民トハ自國ノ主權ノ行ハレザル他國ニ移住スル者ヲ謂フモ、『ころに』トハ本來ノ國土以外ニ於テ自國ノ主權ノ行ハルル土地ニ發展スル者ヲ謂フ。而シテ既ニ本國對新發展地間ニ斯カル政治的ノ從屬關係ノ存スル以上ハ、新發展地ニ於ケル文化ノ程度・住民ノ多少・土地ノ遠近・移住ノ目的・移住者ノ有無等ハ敢テ問フノ要ナク凡テ之ヲ植民地ト稱スルコトヲ得ベシ、故ニ若シ『土地』ニ對シテ『ころに』ナル語ヲ使用スル時ハ、某國家ガ其ノ本來ノ國土以外ニ於テ新タニ領有セル土地ニシテ、國法上之ヲ本來ノ國土ト同一ニ取扱フコトナク、特別ノ形式ニ依リテ統治スル地方ヲ謂フト解スルコトヲ得ン。

以上吾人ハ『ころに』ナル語ノ淵源ニ溯リテ其ノ意義ヲ紕シ、更ニ之ヨリ轉化セル近世ノ此ノ

語ノ用法及之ニ關スル學者ノ異見ヲ尋子、終ニ吾人ノ解スル『ころに』ナル語ノ意義ニ到達シタリ、然レドモ若シ卑見ヲ忌憚ナク告白セシメバ、『ころに』ナル原語ヲ譯スルニ植民(殖民)又ハ植民地(殖民地)ナル文字ヲ以テスルハ、今日ニ於テハ其ノ當ヲ得タルモノニ非ズト信ズ、少ナクトモ土地ニ對シテ此ノ譯語ヲ充ツルハ無意味ニシテ、寧ロ『屬領』若クバ『新領土』ト稱スルノ遙カニ眞意ニ近キヲ覺エズンバアラズ、何トナレバ近世ノ所謂『ころに』ナルモノハ必ズシモ母國民ノ移住ヲ必要缺ク可カラザル條件トナサズ、假令人ノ移住スベキ者ナシトスルモ或ハ資本ヲ放下シ得ベキ事業アルカ、若クバ單ニ政治上又ハ軍事上ノ必要ヨリ之ヲ保有スル場合モ少ナシトセザルガ故ニ、之ヲ植民地(又ハ殖民地)ト譯スルハ、名實相添ハザルガ如キ感アルヲ以テナリ、然レドモ此ノ問題ニ關スル研究ハ更ニ之ヲ後日ニ譲リ、茲ニハ姑ク從來ノ慣用ニ遵フコトトナセリ。

最後ニ本論ヲ終ルニ莅ミ尙ホ植民又ハ植民地ノ意義ニ關聯シテ茲ニ一言ヲ附加スベキハ、從來本國內ノ一部分ニシテ或ハ交通ノ便ヲ有セザリシヨリ或又其ノ他ノ原因ヨリシテ更ニ多ク人ヲ入ルルノ餘地アル地方ニ、國內ノ他ノ部分ヨリ轉住者ヲ生ズルガ、若クバ在來ノ住民ヲ漸次壓迫シテ其ノ地方ニ一部國民ノ發展スル場合ニ、之ヲ國內植民(Innere Kolonisation)ト稱シ、本來ノ國土以外ノ所謂植民地ニ發展スル場合ヲ國外植民(Aussere Kolonisation)トシテ、互ニ相對稱スルコトアリト雖ドモ、⁽¹⁾是等ハ『ころに』ナル語ノ完全ナル用法ト言フヲ得ズ、蓋シ斯カル移動ハ國內ニ於ケル交通運輸機關ノ發達ニ伴ヒ自然ニ起リ得ベキ現象ニシテ、本來ノ國土以外ニ新タニ領有セル土地ニ向テ國民ノ發展スルトハ自ラ其ノ性質ヲ異ニセルガ故ニ、之ニ植民^{コロニ}ノ名ヲ冠スル

(1) Spring, M. Innere Kolonisation, im Wörterbuch der Volkswirtschaft, Bd. II.

ハ當ラズ、是等ハ單ニ國內轉住ヲ以テ目スベキノミ、斯カル地方ニハ或ハ一時特別法ノ行ハルルコトアリトモ、之ヲ以テ直チニ植民地ト同視スベキノ非ズシテ、寧ロ其性質ニ溯リテ考察スル時ハ、早晚統一の制度ノ支配ヲ受クベキ運命ヲ有スルモノタルコトヲ發見スルニ難カラザルナリ。

次ニ植民地ノ意義ニ關シテモ、理論上ヨリセバ既ニ述ベタル所ノ如シト雖ドモ、實際上ニ於テハ諸種ノ理由ヨリ其ノ名稱ニ特殊ノ用例存ス、例ヘバ理論上ニ於テハ印度ハ英國ノ植民地ナルモ、實際上ニ於テハ之ヲ植民地ト呼バズシテ印度帝國 (Indian Empire) ト稱シ、植民大臣 (Secretary of State for the Colonies) 以外ニ別ニ印度事務大臣 (Secretary of State for India) ヲ置キテ印度ニ關スル事務ヲ統轄セシムルガ如キナリ、是レ蓋シ印度ハ其ノ面積大ニ人口モ亦多ク、殊ニ古代文明ノ發生地タル等ノ歴史の事情ハ、他ノ植民地ト日ヲ同フシテ論ズ可カラザルモノアルヨリ、普通ノ植民地ニ對スル統治方針ヲ以テシテハ到底之ヲ統御スルコト能ハザルニ因ル、加之現今ニ至ルモ印度人等ハ未ダ全ク英國ニ歸服セズ、政治上ニ於ケル實權ハ英人之ヲ掌握スルモ、社會上及經濟上ニ於ケル勢力ハ尙ホ印度人ノ手中ニ在リ、斯カル固有ノ文明及特殊ノ國民性ヲ有セル人民ハ容易ニ其ノ自尊心ヲ挫グルモノニ非ザルガ故ニ、之ガ統治ノ秘訣ハ其ノ名ヲ棄テテ實ヲ收ムルノ方針ニ出ヅルニ在リ、是レ英國ガ印度ヲ植民地ト呼バズシテ印度帝國ト稱シ、以テ土民ノ感情ヲ害セザランコトニ努ムル所以ナリトス、然レドモ印度皇帝ハ英國王自ラ之ヲ兼スルガ故ニ、實質上ヨリ論ズル時ハ印度モ亦英國ノ一植民地タルヲ失ハザルナリ。